

車いすテニスを初めて知ったのは、十年ほど前のことになります。
国枝慎吾選手の試合を、偶然にもテレビで見たからでした。

車いすに乗りながら、それを感じさせない力強さと躍動感にすっかり興奮して魅入ってしまいました。

その後、グレースノート株式会社での当時の同僚である通称・オニさんが、この活動をプライベートで応援していることを知りました。

そのご縁があり、三年前の社内イベントで、車いすの体験会を企画しました。渋谷のオフィスの地下駐車場で初めて乗ったスポーツ向けの車いすは、医療用よりも動きやすく感じましたが、それでもなかなか思うようには動いてくれません。ましてや、ボールに追いつくスピードで操作するのは、とても無理だと思いました。

試合では、片手にラケットを持ち、車いすを操って、ボールを打ち返さなければいけません。素早いチェアワークと多彩なショットで進む試合を、実際に観戦した時の迫力は想像以上でした。

2020年、東京パラリンピックの年。

以前よりも、障がい者スポーツが身近に感じられるようになっていたので、開催を楽しみにしていました。しかし、思いもかけず COVID-19 という困難が全世界を襲います。

関係者のご尽力により、一年の延期で開催が実現しましたが、肉体的にも精神的にもコンディションの維持が求められることになったアスリートの方々には、敬意を表したい思いです。

そして、車いすテニスでは六名の日本人メダリストが誕生しました。それが自分のことのように嬉しく、感動したことを今も覚えています。

その興奮冷めやらぬ昨年暮れには、本トーナメントの実行委員のおひとりでもある山口憲一郎コーチにお願いして、車いすテニスのオンラインレクチャーを社内で行いました。

二年後にパリで開かれるパラリンピックへの展望もお聞きし、選手の皆様のご活躍が今から楽しみでなりません。

プロアスリートの方々のさらなるご活躍と、そして、車いすユーザーへの幅広い障がい者スポーツの普及と発展を心より願っております。

グレースノートボランティアチーム一同